

「日本建築学会構造系、計画系ならびに環境系論文集執筆要領」の変更について

学術レビュー委員会

学術レビュー委員会、論文集委員会では、本会活性化の一環として、論文集の国際的情報発信のさらなる強化について検討してまいりました。

このたび、図表類および参考文献を原則英語表記とする執筆要領の変更を行い、2017年1月1日受付論文より実施することといたしました。皆様のご理解とご協力をお願いします。

下記に詳細をお知らせいたします。

日本建築学会構造系、計画系ならびに環境系論文集執筆要領

下線部は今回改正（追加）された箇所（改正2016年4月21日論文集委員会決定 2017年1月1日実施）

1. 原稿登録の形態と登録料 ㊦)

(1) 原稿（本文・要約を含む）は版下原稿を原則とするが、レイアウト原稿も受け付ける。

㊦)

(2) 版下原稿とは、そのまま製版できるように割り付けした原稿であり、本会原稿規格（原則としてホームページに掲載しているテンプレートを使用する）に従い、ワープロソフト等で執筆し、版下用図・表・写真等を貼り込んだもの。 ㊦)㊧)

(3) レイアウト原稿とは、本会原稿規格に従い作成した原稿で、印刷所で全頁を製版し直すもの。 ㊦)㊧)

a) 査読用原稿において各頁の字数および図表の大きさは版下原稿と同一にする。

㊦)㊧)

b) 文字は手書きでもよい。ただし、明瞭に記載すること。 ㊦)㊧)

c) 図・表・写真は版下原稿となるものを作成すること。 ㊦)㊧)

d) 採用決定後の最終レイアウトは刷上り論文と同一とすること。 ㊦)㊧)

内 容	頁数	版下原稿	レイアウト原稿	備 考
論 文	6	20,000円	40,000円	基 準 頁
	7 *1	20,000円	20,000円	超過頁
	8	40,000円	40,000円	4頁を限度とする
	9	75,000円	75,000円	㊧)
	10	110,000円 を加算 ㊧)	110,000円 を加算 ㊧)	
討 論 回 答	1	無 料	10,000円	基 準 頁
	2	無 料	10,000円 を加算	超過頁 1頁を限度とする

*1) 本文の刷り上り頁数が基準頁数の6頁を超過した場合は、超過頁料として、上記の料金を加算する。 ㊧)

なお、書き方種別A、Bの場合(2.(1)参照)、英文または和文要約は、

この頁に算定しない。 □)ハ)ト)

2. 原稿の書式・規格と論文等の構成 □)ハ)ト)

(1) 書き方種別と頁数 □)ハ)

論文および質疑討論の書き方種別と頁数は以下の通りとする。 □)ハ)ハ)

区分	書き方種別	本文種別	要約種別	本文・英文要旨・キーワード・基準頁	英・和文要約頁数	超過頁
論文	A	和文	英文	6頁以内	1頁以内	4頁以内
	B	英文	和文	6頁以内	1頁以内	4頁以内
討論	C	和文	なし	1頁以内	-	1頁以内
	D	英文	なし	1頁以内	-	1頁以内

[注] 各記入項目の字数・語数の制限は各項目の項を参照すること。 □)

(2) 原稿規格と組み方 □)

a) 原稿の大きさはA4判とする。この原稿1枚が論文集の1頁に相当する。 □)ホ)ハ)

b) 原稿の余白は上20mm, 下30mm, 左右各15mmとし, この記入枠外に記入してはならない。 □)ハ)

なお, 第1頁最上欄の「発行年月日」「通しノンブル」および論文末尾の「受理日・採用決定日」は採用決定後, 本会で貼り付ける。 □)

c) 1頁は和文の本文相当で, 3,000字とし, 本文は2段組を原則とする。 □)ハ)

1行あたり30文字で1頁は50行2段組, 段間は2字あきとする。(30文字×50行×2段=3,000字)。 □)ハ)

第1頁目は表題, 氏名・英文要旨・キーワード・所属機関等の記載分だけ本文記入が削減される。各記入枠の取り方は3.4.5.6で説明する。 □)

d) 書き方種別B・D(英文)およびAの英文要約の場合の文字数・行数換算法は, 1頁あたり, 850語程度とし, 本文は1段組, 50行を原則とする。 □)ハ)ニ)ト)

(3) 論文の構成

論文の構成は下記による。質疑討論はこれに準じる。 □)

論文原稿は, この構成に従い, 「版下原稿執筆の手引き」とそれに掲載している記入例を参照して記入すること。 □)

a) 表題と氏名 □)

b) 英文要旨 (Abstract) □)

c) キーワード (Keywords) □)

d) 所属機関・学位 (1頁目下欄) □)

e) 本文 (本文は図・表・写真を含め, 下記を標準とする) □)

イ. まえがき (Introduction) □)

ロ. 本論 (Body) □)

ハ. 結語 (Conclusion) □)

ニ. 謝辞 (Acknowledgment) □)

- f) 付録 (Appendix), 注 (Notes) および参考文献(References) □)
- j) 英文要約 (Summary) または和文要約 (書き方種別A・Bの場合のみ) □) 卜)

3. 表題と氏名 □)

- (1) 表題は書き方種別A, Cのときには, 和文表題を先に, その下行に英文表題を, 書き方種別B, Dの時には英文表題を先に, その下行に和文表題を記載する。氏名の場合も同様順序とする。 □) 卜)
- (2) 大会学術講演会または支部発表会に発表した研究, その他研究発表会, シンポジウム, 一般的に公表されていない報告書などにおいて発表のものは, その発表場所・時期を第1頁の脚注に記する。 □) へ)
- (3) 表題は論文および質疑討論の内容を具体的に表現したものとする。 □)
- (4) 共通する主題のもとに連続する数編を執筆する場合, 表題は個々の論文内容を表現するものとし, 総主題はサブタイトルとして, その1, その2などを付す。応募規程3を参照。 □)
- (5) 表題・氏名欄等の取り方は以下の通りとする。 □)
 - a) 「通しノンブル」「発行年月日」の貼り付け欄として先頭の本文相当2行を空白行とする。 □)
 - b) 表題および氏名欄は第2行目から概ね13行までの範囲で, 上下に十分な空白行を取って割り付ける。 □) へ)
 - c) このうち, 表題と氏名の間は2行程度の空白行を設ける。 □)
なお, 本欄は字体統一のため, 必要に応じて本会において版を作り直すので, 十分な行数を確保すること。 □) へ) へ)

4. 英文要旨 □)

論文の内容の主要な点を100語以内に簡潔に纏め, 刷上り本文の前に添える。 □)
英文要旨の原稿の組み方に関しては [手引] 3. (2)を参照すること。 □)

5. キーワード □)

キーワードは学術用語集から3~6語 (英文 Keywords, 和文 Keywords) を選択する。 □)
キーワードの原稿の組み方に関しては [手引] 3. (3)を参照すること。 □)

6. 所属機関・学位 □)

論文の発表者全員の所属機関, 職位, 学位 (和文名, 英文名) を明記する。 □)
所属機関・学位の原稿の組み方に関しては [手引] 3. (5)を参照すること。 □)

7. 本文 □)

- (1) 本文の書き方 □)
 - a) 文章および数式は明瞭に記入する。 □)
 - b) 和文の文体は口語体とし, 原則として常用漢字・新かなづかいを用い, 用語はなるべく文部科学省学術用語 (建築学編) とする。 □) へ)

- c) ローマ字, アラビア数字, ギリシャ文字, 上ツキ, 下ツキ, 大文字, 小文字などまぎらわしいものは特に注意を払うこと。 ρ)
 - d) 図・表・写真の横には, 原則として本文は組まない。 ρ)
 - e) 本文の文字の大きさは [手引] 3. (3)を, 原稿の組み方に関しては [手引] 3. (4)を参照すること。 ρ)
- (2) 数式 ρ)
- a) 数式には, (1), (2), (3)などを通し番号を付す。 ρ)
 - b) 添字は論文の刷上り時に見える大きさとする。 ρ)
- (3) 図・表・写真 ρ)
- a) 版下原稿作成
 - ①「版下原稿方式」「レイアウト原稿方式」の両方とも版下原稿を作成する。 ρ)
 - ②図表は直接掲載位置に貼り込む。 ρ)ハ)
 - ③「レイアウト原稿」の場合は図・表・写真の版下原稿を最終提出時に提出する。 ρ)
 - ④写真の中に直接説明が入る場合は, 写真に直接タイプ文字を貼り込む。 ρ)
 - ⑤図表等は原則英語表記とする。ただし, 必要に応じて日本語, その他の言語の併記を認める。また, 文字と記号等は印刷仕上がりの大きさ(A4判)で十分に判読できる大きさでなければならない。 ρ)ハ)ト)チ)
 - b) 表題と通し番号 ρ)
 - ①図・表・写真には, 内容を明確に表す表題を必ず付ける。書体はゴシック体とする。 ρ)ハ)ト)
 - ②図表等の表題は原則英語表記とする。ただし, 必要に応じて日本語, その他の言語の併記を認める。 ρ)ト)チ)

英文表題の書き方は, 初語の頭文字のみを大文字とし, その他は小文字を用いる。ピリオドは省略する。 ρ)

 - ③表題には, 図・表・写真ごとに通し番号を付ける。 ρ)
 - この時, 章ごとに分けずに, Fig.1, Fig.2, …, Table1, Table2, …, Photo1, Photo2, …, などと記入する。書体はゴシック体とする。 ρ)ハ)ト)チ)
 - ④表題記入位置は, 図・写真の場合その直下, 表の場合はその直上とする。
- c) 組み方
 - 図・表・写真の組み方に関しては [手引] 3. (4)を参照すること。 ρ)

8. 注および参考文献 ρ)

- (1) 注および参考文献は, 本文の後にそれぞれを使用順に番号を付け, まとめて掲載する。 ρ)

注および参考文献の文字の大きさおよび原稿の組み方に関しては [手引] 3. (6)を参照すること。 ρ)

- (2) 注および参考文献の番号は, 本文中の引用箇所に肩付き文字^{1),2), 注1), 注2)}のように明記する。 ハ)
- (3) 参考文献の記載方法は以下の通りである。 ρ)

 - a. 参考文献は原則として英語で記載すること。ただし, 英語以外の文献をあげる場合

は原則として原語と英語を併記すること。 ト) ㊦)

- b. 論文等の場合「著者名：表題，誌名，Vol.，No.，掲載ページ，発行年月」の順とする。 ト)
 - c. 単行本の場合「著（編）者名：書名，発行所名，発行年」の順とする。 ト)
 - d. 欧文の場合には，姓を先に記す。また，連名者は「et al.」で省略することもできる。 ト)
 - e. 和文の場合には，著者名は必ず姓で記す。著者が多い場合には，筆頭者以外は「ほか〇名」で省略することもできる。 ト)
 - f. 発行年月日は，原則として西暦で「1995.1」「1995.2」のように記す。
- (4) 一般に公表されていない文献，たとえば未発表の論文，簡易印刷（コピーしたものなど）の委員会報告や社内報告および私信などは，文献として扱わない。
必要とあれば注とし，引用箇所に肩つき文字^{注1)}，^{注2)}のように明記する。 ㊦)
- (5) 図・表・写真などの引用・転載にあたっては，著者自身が原著者などの著作権所有者の許可をとらなければならない。 ㊦)
- (6) 電子文献については「科学技術情報流通技術基準（SIST）電子文献参照の書き方」https://jipsti.jst.go.jp/sist/handbook/sist02_2007/main.htmを参照する。 ㊦)
- (7) 記載例

参考文献 ㊦)

- 1) Luco, J.E. and Westmann, R.A.: Dynamic Response of Circular Footings, Journal of the Engineering Mechanics, ASCE, Vol.97, pp.1381-1395, 2017.4
- 2) Kenchiku, K. and Shirakawa, H.: Experimental Study on Braces Using Mortar Planks, Journal of Structural and Construction Engineering (Transactions of AIJ), Vol. 77, No. 777, pp.778-787, 2016.1 (in Japanese)
建築健太郎，白川華花：モルタル板を用いたブレースの実験的研究，日本建築学会構造系論文集，第77巻，第777号，pp.778-787，2016.1
- 3) Kenchiku, K. and Tanaka, K.: Field Measurement of VOC in Dust in Residential Buildings, Journal of Environmental Engineering (Transactions of AIJ), Vol. 77, No. 789, pp.1789-1798, 2016.7 (in Japanese)
建築健太郎，田中建：住宅におけるダスト中 VOC 濃度測定，日本建築学会環境系論文集，第77巻，第789号，pp.1789-1798，2016.7
- 4) Nakamura, T.: Nihonkenchikujii (Japanese Terminology Dictionary for Architectures), Maruzen, 1906 (in Japanese)
中村達太郎：日本建築辞彙，丸善，1906

注

注1) 「大工頭中井家文書」（史学第37巻第1号～第46巻第1号）105によると，紫重右衛門が中井大和守の配下で勘定方を担当したことがわかる。また長香寺寄託中井家文書に「慶長十五年十九年，駿河御用少々記」と題する留帳があり，その中の「駿河御城大工作料方にて渡手形之覚」は慶長15年11月15日に中井信濃守が作料を請取った旨を紫重右衛門，村伊右衛門に宛てた覚書の写しで，この両名が中井家の勘定を

担当していたことを示している。

- (8) 注および参考文献等記入後の論文の末尾に原稿受理・採用決定年月日記載用に2行程度の空白を取る(この欄は本会で作成する)。 □)へ)

9. 英文要約または和文要約 □)

- (1) 原稿書き方種別が、AまたはBの場合、英文要約は論文の末尾に改頁し付け、和文要約は論文の末尾に付ける。 □)ト)
- (2) 英文要約は600語以内とする。また、和文要約は3,000字以内とする。 □)ハ)ニ)ト)
- (3) 要約中には図表を挿入せず、本文図表の参照引用にとどめる。 □)

10. 電子形態による公開 へ)

掲載された論文・質疑討論は本会および関連するサーバーで、電子形態によって全文が公開される。 へ)

11. その他 □)へ)

- (1) 紙面投稿による論文、質疑討論の原稿提出については、次の確認を行う。 □)へ)
- a) 論文、質疑討論の原稿と関連書類は、下記の要領に沿って作成したものを提出する。 □)ホ)へ)

摘 要	原稿の提出種類			備 考
	新規原稿	改訂原稿	最終原稿	
原 稿	3部 (コピー)	2部 (コピー)	1部 (オリジナル)	最終原稿以外はコピーでよい。原稿の右下枠外の[原稿番号欄]に頁数を記入する
査読書に対する回答書	不要	2部 (コピー)	不要	再査読の判定を行った査読書に対する回答を各2部提出する。修正意見付採用の場合は不要
原稿受領書	1部	不要	不要	「連絡先の住所、氏名」「論文の表題」を記入する
論文集登録料等払込案内書	1枚	不要	不要	「別刷部数」「支払種別」「払込方法」等を記入する
受付シート	1枚	不要	不要	カテゴリー区分、研究部門、掲載希望系列、表題、連絡先などを記入する。

(2) 不備な原稿等の返却 □)

論文応募規程、本執筆要領、版下原稿執筆の手引きの下記に示す事項を守っていない論文は事務的に返却する。 □)

- a) 既発表の論文(論文応募規程 1. (1) a) および 2. 参照)。 □)
- b) 連続した論文の先の編の査読が終了していないもの(論文集応募規程 3. 参照)。 □)
- c) 応募資格者以外が著者になっているもの(論文集応募規程 4. 参照)。 □)
- d) 本会原稿規格以外のもの(本要領 1. (1) (2) (3) 参照)。 □)へ)

- e) 頁数制限を超過したもの（本要領 2. (1) 参照）。 □)
- f) 原稿の記入枠・行数・字数等の規格と組み方を守っていないもの（本要領 2. (2) (3) 参照）。 □)
- g) 図・表・写真等が版下原稿として作成されていないもの、および不鮮明なもの（本要領 1. (2) (3), 執筆の手引き 2. (1) (3) 参照）。 □)
- h) 「版下原稿」の場合、本文・注・参考文献の文字の大きさと種別が適切でないもの、および印字が不鮮明なもの（執筆の手引き 2. (1) (3) 参照）。 □)
- i) 図表等および参考文献が英語で記載されていないもの（本要領 7. (3) および 8. (3) (7) 参照) □)

j) 提出原稿の部数・添付文書等の不備なもの（本要領 11. (1) 参照）。 □)

(3) 校 正 □)

- a) 版下原稿の場合には、組み直した 1 頁目のみ著者が校正を行う。 □)
- b) レイアウト原稿の場合には、全頁の著者校正を行う。 □)